丹波篠山市立城東小学校　学習・生活習慣に関する調査結果の概要に係る資料

丹波篠山市学力・生活習慣状況調査及び、全国学力・学習状況調査は、各教育委員会や各学校が児童生徒の学力や学習状況を把握し、学習指導や生活指導の改善等に役立てることを目的として実施されています。

本調査について、本校としての分析結果をまとめました。本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえつつ、保護者・地域の皆様の理解と協力のもとに適切に連携を図りながら一層の指導の工夫改善に努めます。今後も引き続き学校の教育活動に対してご支援いただけますよう、お願いいたします。

Ⅰ　丹波篠山市学力・生活習慣状況調査(5年)及び全国学力・学習状況調査(6年)の結果について

【国語】

５年生は、「知識・技能」「読むこと」等の問題に関して全国平均を上回りました。漢字の読み書きや、文章に書かれていることを捉えながら読み進める力が高まってきています。6年生は、キーワードや箇条書きでまとめられたメモなどの情報を読み取る力が身についています。また、条件作文において、半数児童が正答できていました。一方で、残りの児童のほとんどは無回答でした。5・6年生の調査では、共通して、「情報を整理して考えること」と、「条件に応じた記述」の2点において課題が見られました。具体的には、問題文にある複数の指示や条件、および図表やイラストといった複合的な情報を正しく整理し、関連付けて読み取る問題が苦手な傾向にありました。また、与えられた条件を基に「何をどのように書くか」の見通しが立てられず、書き出しで手が止まってしまう児童が多いことがわかりました。

これらの課題に対しては、複数ある情報と関連付けて文章を読み取る力をつけるため、文章を読み進める上では教科を問わず、「重要語句」に線を引かせるなどして確認し、図や表などの資料と文章を関連付けて読む活動を取り入れます。また、教科書から重要語句を抜き出す発問を増やし、要点を押さえた構造的な板書で理解を促します。「書くこと」に関しては、日記・感想・授業のふり返りなど、日ごろから書く活動を積極的に取り入れていきます。発展的な課題として、キーワードや字数制限、テーマ等を与え、条件を基に書く活動に努めていきます。

【算数】

全体としては課題の残る領域が見られるものの、5年生は「図形」、6年生は「測定」の領域において、学習の成果が見られました。一方で、問題に関して長文問題や複雑な図表から、問題解決に必要な数値や言葉などの情報を自力で抜き出し、「何を問われているのか」を整理して考えることに難しさが見られました。また、文章を読んだ後すぐに式を立てようとする傾向があり、その前段階として関係図や数直線などに表して、場面を視覚的に捉えることができていないことがわかりました。基本的な計算はできている一方で、位取りの構造や「１あたりの量」の意味、（　）を用いた計算順序といった「算数の概念やきまり」の理解が曖昧なため、応用問題や発展的な学習において解き方の見通しが立たず、粘り強く思考することに課題がありました。

これらの課題を解決するために、まずは、思考の基盤となる計算や言葉の定義などの基礎基本の定着をめざして、授業や家庭学習で時間を確保して、継続的に取り組んでいきます。授業の中では、問題文や図表から、「何を求めるのか」と、求めるために「必要な数値・条件」を整理して、解くためのキーワードを確認してから立式へ向かわせます。また、図や数直線などを用いて場面を視覚的に捉え、思考の過程を説明する活動を通して理解へとつなげ、自分の力で課題を解決する力を高めていきます。

2 生活習慣・学習習慣（3～6年）について

調査の結果から、多くの児童が「家族からの支え」を感じていることがわかりました。温かく見守ってくださるご家庭の存在が、児童の精神的な安定の基盤となり、安心して登校し、友だちと豊かに学校生活を送る原動力になっていると捉えられます。

また、「学級の絆」や「所属感」を実感している児童の割合も高く、自分のクラスに愛着を持ち、日々の学校生活を楽しく感じている児童が多くいることがわかりました。今後も学校と家庭が連携し、児童の日常的ながんばりや成長の過程を認め、価値付ける関わりを継続していくことが、児童一人ひとりの達成感や自己肯定感、ひいては確かな学力の定着へとつながると考えています。

生活習慣・学習習慣に関する調査では、「朝食の摂取」「就寝時刻」「運動習慣」といった基本的生活習慣に関わる項目において、多くの児童が肯定的に回答しており、健全な生活基盤が整っている児童が多くいることがわかりました。一方で、学習習慣については、学年を問わず「意欲的に取り組む児童」と「習慣化に至っていない児童」とに二極化していることが課題として浮かび上がりました。今後は、自主的な学習方法の工夫や、読書習慣の定着に向けた手立てが必要だと考えています。

今後も家庭と連携しながら、家庭学習の定着や読書の推進に取り組んでいきます。あわせて、学校においても、「たのしい・わかる・できた」を実感できる授業づくりを通して、児童の自己肯定感を高める取組を進めていきます。